

社会福祉法人尾道さつき会尾道福祉専門学校
2018年度 第1回教育課程編成委員会議事録

日時 2018年9月4日(火) 17:00~18:00(18:30終了)
場所 尾道福祉専門学校セミナー室
参加者 国際大学久保田先生 泰清会久保田先生 川原先生 校長 豊田 金子
議題

1. はじめに 校長挨拶 委員を継続して引き受けて頂いたことへのお礼

今回の7月6日の豪雨に伴う災害、断水への対応状況説明として、専門学校は1週間休み、金曜からの再開し職員で水を溜めた。断水2日目に地域の一人暮らしの方に水を届けたり、地区の土砂の撤去ボラに学生が参加したりと、貴重な経験となり、災害で学ぶべきこともあった。災害時のマニュアル作りを当法人で作成する。台風21号が本日も来ている。災害に強い法人を意識する機会となる。

職業実践専門課程の3年目で、今年再申請の途中である。専門学校がめざす姿を開示していく。

2017年度の学生状況 この3月に16名が卒業。14名が就職した。求人は多数である。

国試は16名合格した。2年生は、12名である。4名は進級しなかった。1年生は、入学当初は20名のところ精神面での困難さ等で17名となっている。入学者が減ってくる社会状況、東部の専門学校の募集停止の方向性が不明な中である。

・川原先生：県東部60万人の中からの掘り起しが必要であり、今年はそのチャンスである。松永高校では、今年はずべて尾道に行かせているとのことである。体験入学にも東部の高校生が来ている。

2. カリキュラムについて・介護実習について 福レクからレクイントラ選択制に変更し、2年生2名の受講した。外部の企画に参加したのち修了となる。引き続き来年度も数名の希望がありそう。

国試 前期から対策授業を行い、後期には中央法規の模擬試験を受ける。

介護実習 1年ではデイや地域密着型の施設から、2年生で入所(従来型)となると、時間の流れの違いや業務や速さが求められることからか学生の戸惑いが大きい。授業で前もっての対応を行う。

・川原先生：施設側の人員不足で指導の余裕がない中なのではないかと思われる。体制ができていないところに実習に行っている。施設側の問題もありそう。

来年4月からカリキュラムが変わる。人間関係とコミュニケーションが増え、マネジメント能力、リーダーシップ等が求められる。

・校長：コミュニケーションがなかなかとれない学生が男子学生に多い。
・豊田：1年は3限が終わったらすぐに帰り、女子はアルバイトで帰り、男子はのんびりしている。お互い関わることがあまりない。時間外で、男子に手厚く指導している。

外国人留学生 問い合わせはあるが、現在はいない。明日、福山で日本語学校の学生のガイダンスがある。

・国際久保田先生：留学生は2名(中国人、N2以上)あり。初年度としてよい学生が入学した。ベトナムは介護の概念がない。インドネシアは介護の資格制度をつくる動きがある。インドからも確実なルートで学生を確保する。

・川原先生：台湾は政権が代わり小規模をつくる制度がなくなった。技能訓練生は、大規模の施設が受け入れるぐらいではないか

介護の仕事を辞める理由 看取り 叱られ方 腰痛
看取りの状態を受け入れにくい学生がいるのではないか

・川原先生：看取りは当たり前の事になっている 尾福の学生は誰もやめていない
特養は高校生を就職させて、しかも専門の学生の求人にも来るのはいかがか

・久保田あ先生：6割が病院、4割が施設で、看取り 学生でも個別性が大事にしていく

・国際久保田先生：ドイツの制度で施設への就職という実習で施設学校に学費を払うというのがある。

3. 実務者研修の実施状況について 今年度の受講生32名(無資格15名 2級10名 初任者7名)
年に回の開講が有効か検討中である。

4. 意見交換 その他

・校長：福山の施設で法人に就職して学校に入学するという制度として、中四国をまわって宣伝して下さっている。

- ・川原先生：若者職員が楽しんでいる施設をまわっている あおいケア 幸福感の価値観が変わってきている。二極化している。働き方も変わってくる。
- ・久保田あ先生：働き方、学び方改革で、人材不足への対応が必要である。
- ・国際久保田先生：新見大が4大として、介護福祉士と社会福祉士がとれる、日本一学費が安いという売込みである。福祉の魅力をどう伝えていくかである。